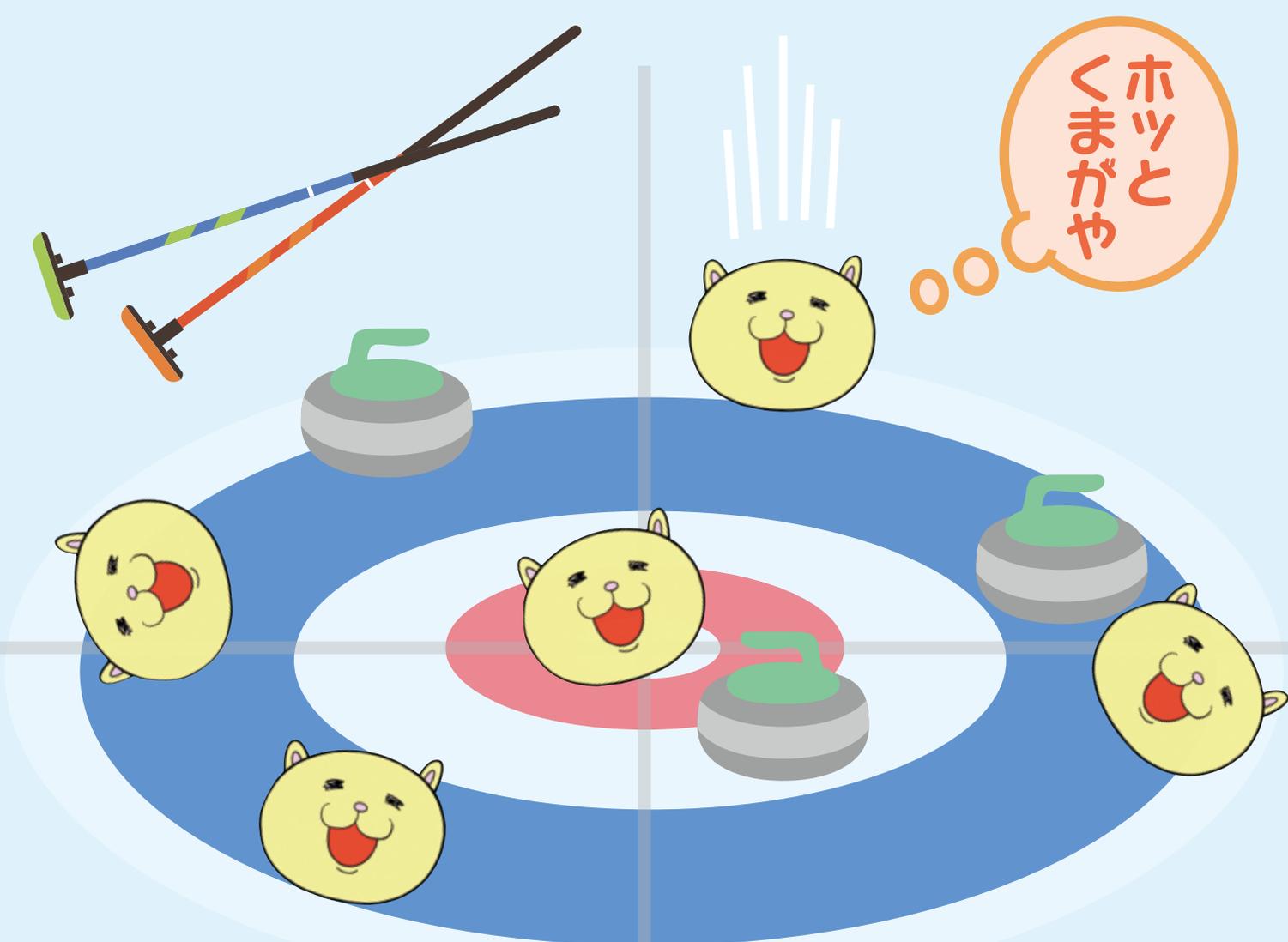


# ひろば

第25号

平成31年1月発行



©熊谷市

## 「自助」・「共助」・「公助」

熊谷市自治会連合会副会長  
野口幸雄

昨今、地球規模の自然災害が大変多く、各地で大災害を発生させております。

国内では、6月に大阪北部地震(M6.1)が発生し、7月には西日本豪雨により広島県をはじめ各地で土砂災害が発生、そして、9月には大型台風21号が上陸し、北海道胆振東部地震(M6.7)も発生、さらに大型台風24号も本州に上陸しました。幸いにも本市では今のところ大きな自然災害も発生しておりませんが、いつ、どこで災害が発生してもおかしくない状況であります。

防災に対する考え方に「自助」「共助」「公助」があります。この言葉は、江戸時代の米沢藩の上杉鷹山の「三助の実践」の『自助』『互助』『扶助』からきているとも言われております。

これらの中で、「公助」には限界があります。「自助」は最終的には個人の問題ですので、「共助」が重要になります。その「共助」の基本は、やはり顔の見える範囲の地域の防災組織ではないでしょうか。本市の自主防災組織の状況は、スタート時点の平成15年には19組織で組織率12.89%でしたが、平成30年9月時点では261組織で71.01%と向上しております。しかし、まだ全国や埼玉県平均を上回る組織率と成るよう頑張りたいです。

# ◇曙・万平町自治会連合会◇

会長 篠田 健

曙・万平町自治会連合会は、熊谷駅南東の高崎線と荒川の土手の間の区域で、曙町8自治会、万平町4自治会、1100世帯の連合会です。近くに市立文化センター、図書館、体育館があり、荒川緑地や桜堤、曙公園や万平公園と、緑豊かで交通も便利で日常生活に利便性の高い地域です。

最初に、当連合会の恒例行事をご紹介します。

## ○春の防災訓練とさくら祭り

万平公園を会場に、防災訓練とさくら祭りを同日開催します。今年535名が午前中の防災訓練に参加し、炊き出し訓練と市の危機管理室の防災講座を受講しました。併せて、今年は隣近所の人と中学生が協力して災害時要援者を自宅へ迎えに行き、26名の方々を万平公園へ避難誘導しました。午後からはさくら祭りを楽しみました。

## ○夏祭り

7月の3日間は、曙・万平町の八坂祭りです。揃いのハッピー姿の子ども達が神輿を担ぎ、まつり囃子がにぎやかに町内をくまなく練り歩きます。曙公園では、子ども達のスイカ割り、夕方からはお楽しみ抽選会の豪華な景品で歓声が上がります。この他にも、体育祭、敬老会、秋の防災訓練、初日の出を拝す会など通年にわたり自治会行事が続きます。今年度は自治会館改修工事、地区内全域の防犯灯260灯のLED化が完了し、5年ぶりの会員名簿改訂にも取り組んでいます。

## ○万平公園から見える熊谷の歴史

地域の活動は多岐にわたりますが、今回は校区連絡会の事業で地域の有志で立ち上げた「万平公園史跡研究会」の活動を紹介します。

万平公園は、熊谷駅から南東へ500mの住宅街にあり、3000坪の公園内には150mにわたる「旧熊谷堤」が桜並木とともに保存され、熊谷の歴史を語る5基の石碑があります。

## 竹井澹如碑

竹井澹如は、熊谷宿本陣の当主で、幕末から明治期の熊谷の発展に尽力した偉人です。初代埼玉県議会議長就任、熊谷県の開設、荒川の洪水から熊谷を守る突堤（万平出し）築造の推進、熊谷寺本堂の再建、熊谷堤に桜を植え名勝熊谷堤を復活させるなど多くの偉業を成しました。その功績を顕彰する石碑には、澹如の生い立ちから、公共のために全身全霊を捧げた功績が記されています。ちなみに、万平とは澹如の幼名「萬平」から名付けられました。



## さくらの名勝熊谷堤を語る3基の碑

万平公園には、かつて吉野、小金井と並び日本の桜三大名所の一つといわれた熊谷堤を語る3基の石碑「名勝熊谷堤碑」「熊谷堤栽桜碑」「桜植功勞碑」があります。明治16年、荒廃していた熊谷堤を復活すべく、東京染井の毛利別邸からソメイヨシノを購入し、開業前の高崎線を使い熊谷まで運び、450本を植樹しました。その後、増植を

重ね、明治43年には堤上の桜は906本となり、最盛期には上野から観桜列車が増発されるほどになりました。昭和2年に国から「史跡天然記念物」に指定された記念碑が「名勝熊谷堤碑」です。戦後の都市計画のため旧熊谷堤の大部分が撤去され、今では万平公園に一部を残すのみとなりましたが、3基の石碑と毎春咲き誇る満開の桜が、昔の栄光を残しています。



## 熊谷の絹産業と蚕霊塔

万平公園の中ほどに巨大な「まゆ」の形をした蚕霊塔があります。これは生糸生産のために使われた繭に対する祈念碑です。明治から戦前まで、日本の発展を強く支えてきた絹産業。輸出品の8割が生糸という時代もあり、日本近代化に最も重要な産業でした。地元曙町には県の繭検定所があり、石原の蚕業試験場とともに熊谷は県内絹産業の中核でした。そのため、熊谷全域で養蚕業が盛んで、大正から昭和にかけて片倉製糸をはじめとする製糸工場も多数あり、産業の中心を担ってきた熊谷の歴史を蚕霊塔は物語っています。ぜひ、万平公園にお立ち寄りください。



# ◇久保島第一自治会◇

会長 篠塚 正行

久保島第一自治会はJR籠原駅南東の2〜3キロメートルに位置し、地区の南はさくら運動公園、北は国道17号までの区域で、JR高崎線が東西に通過しております。第一自治会の区域内に位置する久保島第二自治会とは、イベント等連携して一体的に活動しています。

JR高崎線の南側の地域は田園風景豊富な地域、北側の地域は人家連担の住宅地で、自治会員数は、新旧会員の混在した概ね800余世帯です。新旧会員の交流促進を図るため、従来からの事業に加え新規の事業も実施しております。

活動は、「全員参加の無理のない・出来る範囲で楽しく行うこと」をモットーに久保島地区4団体（久保島第一自治会・第二自治会・子供会・明星会）を中心に事業を展開しており、主な事業を紹介します。

## 納涼祭の実施（8月の土・日）

納涼祭（盆踊り）は、久保島地区の伝統行事で、4団体で構成する実行委員会により、若い世代と高齢者が熱心に協力し合って準備を進めます。平成30年には新たに「心一つにくぼじま」のロゴ



入りTシャツを作成・着用して、子供達を中心に賑やかな2夜となりました。寄附金のみで実施しています。

## 環境美化活動

平成20年に設立された農地・水・環境保全会を中心に、国・県・市の補助金を活用して、地区内の環境美化活動を推進しています。

実施している事業は、参加者600人余りの春・秋のゴミゼロ活動、用排水路周辺の草刈り、さくら運動公園通りの花壇の花植え等を実施しています。地区民の環境美化意識が醸成され、年々ゴミが減量化されています。

久保島地域は、9月下旬になると曼珠沙華の花が咲き乱れることから、「曼珠沙華の里祭り」を秋のゴミゼロ運動の後に実施しております。

祭りでは、曼珠沙華の植生状況を紹介します。コーラス・カラオケ・踊り・豚汁と700人余りの人々が盛り上がります。



## その他の活動 （防犯・防災活動、サークル活動、 村祭り等への支援）

防災・防犯活動として、毎年、防災訓練の実施や子供の見守り隊、冬期（12月〜2月）に防犯パトロールを実施し、安心・安全な地域づくりを目指しております。

最近では、ゴルフ会・そば会・ホテル会に加え、自治会館を利用したサークル活動（久保島サロン・カラオケ仲間会・久保島健康体操・歌声喫茶くぼじま等）が活発に行われております。また、久保島そば会・子供育成会と連携し、芋掘り体験と焼き芋を楽しんでいます。

地区の伝統的な行事として、鎮守様の「春・秋の祭典」、初詣、3月の「おっしさま（お獅子様）」があり、これら行事へも側面から可能な範囲で支援活動を行っています。

今後も自治会活動を活発化して「安心安全で住み良い久保島」をつくってまいりたいと思います。



## ◇妻沼・東岡地区の紹介◇

東岡自治会長 野口 繁雄

明けましておめでとうございます。

妻沼地区の東岡は、妻沼聖天山の北東、県道太田熊谷線の両側に位置し、利根川に隣接する地区です。地区内には、商店、工場、クリニック及び一般住宅等と農地が混在し、在住者は現在115世帯で、多少の増減を繰り返しています。

現在、利根川の改修は200年に一度の確率で発生する豪雨を想定して整備を進めているのですが、全国的に見れば、昨年も度重なる台風及び西日本豪雨等、1時間に100mm超の降雨が頻繁に発生していますので、改めて利根川の氾濫を危惧している地区でもあります。利根川沿いの他の地区も含め、豪雨により越水しても破堤しない堤防強化対策が進捗することを望むところです。



## ◇おらが鎮守の白髪神社

白髪神社は、平安中期の西暦927年に律令の施行細則を編纂した延喜式神名帳に記載（全国で2861社）されている式内社で、妻沼では一番古い格式の高い神社と聞いております。江戸時代、利根川の氾濫域であった東岡の耕地開拓が始まり、村が形成され、五穀豊穡を願い祠を建て、高岡稲荷社が祀られました。その後、鎮守の神の鎮座を望み、大我井の森（聖天山、大我井神社、白髪神社）から白髪神社を高岡稲荷神の祠に合祀されたとのこと。祭事は、元旦祭、2月の初午祭、4月の春季大祭、7月の風祭り、10月の秋季大祭を行っています。白髪神社は東岡地区全員が氏子であり、宮司さんを補佐し神社の維持管理を統括する神社総代及び副総代も皆で神社の運営に携わるため交替で担当しています。神社を大切に守り、次世代へ伝えていって欲しいと思います。



## ◇夏祭り

毎年、聖天山の夏祭りに併せて当地区でも無病息災を祈念して、子供御輿の渡御を実施しています。昨年は、7月15日の日曜日に行いました。地区の子供達18名が参加し、賑やかで楽しい祭りとなりました。白髪神社から東岡公民館まで地域内を廻る約半日の渡御です。昨年は、朝からの猛暑で熱中症が心配されましたが、地区住民の協力により水分補給と休憩場所を多く取ることができ、幸い父兄を含め一人の落後者も出さず無事終了することができました。



## ◇水路の雑草等除去作業

年に一度、地区民総出で地区内を流れる水路の草刈り等雑草除去作業を行っています。共同作業を行うことで、参加者相互のコミュニケーションを図れる貴重な機会となっています。昨年は、気温も高く、好天に恵まれたことで雑草の生育が良く、刈り取り量も膨大となりました。作業は盛夏を避け、8月下旬の早朝に実施しましたが、大変な作業となりました。しかし、大勢の人の協力により予想より早く終わったため、併せて、近くの白髪神社境内の草刈りとゴミ処理も実施することができました。

## 平成30年度県外研修

11月8日、全自治会長を対象とした県外研修を神奈川県藤沢市で実施しました。今年度は、藤沢市の自治会運営サポート事業を中心に自治会活動状況をお聞きしました。研修概要は以下のとおりです。詳細は、熊谷市ホームページでも公開しています。(市ホームページ内で「平成30年度県外研修」でキーワード検索すると該当ページが見つかります。)

### ①藤沢市における自治会・町内会の現状について

藤沢市は人口約43万人で、市内は13地区に分かれています。各地区の支所は地区自治会連合会などの地域団体の事務局を担い、地域活動の支援を行っています。市内には476の自治会・町内会があり、各地区に地区自治会連合会がありますが、市全体の連合会はありません。自治会加入率は74.6%です。

自治会・町内会が抱える問題には、加入率低下や役員の担い手不足が挙げられます。加入率は年々減少している状況です。役員の担い手不足も、特定の人の負担増を招き、負担を嫌う人たちが自治会活動から離れて、さらに担い手が不足するという悪循環に陥ってしまいます。

このような問題を解決するために、自治会・町内会と行政とが対等な立場で協力し合い、それぞれができることを実行することが重要です。防災・防犯・高齢化が問題になっている今こそ、問題解決の好機なのかもしれません。

### ②自治会・町内会運営サポート事業について

藤沢市との協働事業として、日本キャリアアップ支援協会は自治会・町内会運営サポート事業を行っています。この事業は、自治会だけでは対応できない課題解決のお手伝いをし、自治会が自主運営できるようにサポートする事業です。講座やセミナーの開催と、自治会への個別支援の2種類に分かれています。

講座やセミナーは個人的にも役立つ内容にしています。より多くの人に参加してもらえよう、内容を自治会のことだけに限定していません。最近では、「思いが伝わるチラシ講座」や「コミュニケーション講座」を開催しました。

自治会への個別支援では、モニターになる自治会を直接支援します。また、解決事例がより多くの自治会に役立つよう情報公開にも努めています。具体的な事例を紹介すると、防災訓練のサポート事例では、参加者を増やしたいという課題に対して、役員の方との会話を重ねながら目的・ターゲットを明確にし、参加者を増やすことができました。事務サポートの事例では、役員交代によりデータ管理ができなくなったという課題に対して、実際に役員の方の自宅を訪問し、パソコンの再設定やマニュアルづくりを支援しました。

### ③自治会事例発表「ITの活用による役員の負担軽減」

今田団地自治会は小田急江ノ島線湘南台駅付近の自治会で、会員数は500世帯です。自治会運営サポート事業のモニターに選ばれ、データの管理についてサポートしていただきました。



当自治会では役員の担い手不足の解消のため役員任期を2年とし、多くの人が役員になるようにしましたが、それと引き替えにデータの取扱に問題が発生しました。もともとデータをクラウドで管理していましたが、使いこなせる人がいない状況になってしまいました。そこで、サポート事業を通じて、パソコンの再設定や誰でも分かるマニュアルの整備を行い、知識がない人でも使いこなせるようなシステムを再構築しました。実際に役員の方の自宅で作業してもらったので、非常にやりやすかったです。

自治会の行事は毎年似たようなものが多いです。資料がクラウドにあると、必要な時にすぐに使うことができ、事務の効率化を実現することができました。



## 平成30年度講演会

11月27日(火)、講演会を開催しました。今回は、熊谷総合病院の循環器内科杉山先生による「知っておきたいカラダのこと 狭心症と心筋梗塞」、リハビリテーション科高野先生による「健康寿命をのばす 熊谷市における介護予防体操と地域づくり」のご講演をいただきました。

<参加者の感想>

- ・先生方の分かりやすい講演で、とても有意義な時間が過ごせた。
- ・健康には自信があったが、健康診断を必ず受けるようにしたい。
- ・ニャオぎね元気体操は非常に良かった。早速実践したい。



## 平成30年度座学研修

8月28日(火)、大里コミュニティセンターにおいて座学研修を実施しました。今回の研修では、「役員の選出方法」、「防犯・防災への取組」、「自治会内での要望や意見への対応」などテーマ別に12班に分かれて、情報交換や意見交換を行いました。

当日はグループごとに、各自治会の活動状況や課題について、情報交換・意見交換を行いました。最後に全グループが話し合った内容を発表し、情報共有を行いました。

### ◎参加者の感想

- ・各自治会の現状・意見が聞けて、有意義な時間が持てた。
- ・話し合うことに意味があるので、自由に悩みが聴けて良かった。
- ・自治会活動に取り入れられる事例があり、参考になった。
- ・座学研修の結果をどのように活用できるかが今後の課題だと思う。



## 平成30年度市長との懇談会



11月20日(火)、熊谷市役所603会議室において、市長との懇談会を開催しました。今年度は「ラグビーワールドカップ2019開催に向けた取組」について市長と懇談し、現在の状況や今後の取組、10月のこけら落としや11月のパブリックビューイングで実際に感じたことなどについて、和やかな雰囲気での懇談が行われました。

## 第8回親睦グラウンド・ゴルフ大会

10月23日(火)、くまがやドームにおいて、熊谷市グラウンド・ゴルフ協会のご協力のもと、第8回親睦グラウンド・ゴルフ大会を開催しました。

今年度も自治会長同士の交流の促進を目的に、ランダムでチームを編成し、競技を実施しました。当日は肌寒い一日でしたが、ホールインワンが出ると歓声が上がると、グラウンドゴルフを楽しみながら会長同士の交流を深めました。



### 編集後記

自治会は、安全安心で住みよい地域作りを目指しています。そのためには地域の人と人のふれあいがとても大事だと考え、幅広く活動を展開しています。今回の25号の寄稿ページには、各自治会の防災訓練、防犯活動、夏祭り、納涼祭、鎮守祭りそして環境美化活動など、その地域の事情に合せた形で行われている活動の一環が紹介されています。人が代わっても活動は継続するよう、人と人とのふれあいの輪を保ち拡げてゆく不断の努力が大事だと改めて思いました。今年は一生成に一度のラグビーワールドカップが熊谷で開催され、「ワールドカップ情報」等で市から適宜情報提供されています。たくさんの方がラグビーに興味を持ちスタジアムに足を運んで頂ければと思います。併せて、熊谷を国内のみならず海外から見えるお客さんにも知って頂くよい機会となりますので、おもてなしのころを大切にしたいと思います。そして、一人一人の行動力とところでワールドカップを成功させましょう。

熊谷市自治会連合会副会長 志村喜三郎